

# Affordable & Sustainable

連載 第15回 これまでの連載を振り返って  
(最終回)

## はじめに

ジョージア州アトランタ時代に本誌連載の機会をいただき、2018年7月の診療情報管理士の特集号をきっかけに「アトランタから医療360度便り」、そして現在のノースカロライナ州のリサーチトライアングル地区に移り「メディケア相談員が語るアメリカの医療」、「アフォーダブルとサステナブルの視点から見たアメリカの医療」の連載をさせていただきました。

今回は、最終回ということで、これまでの連載のトピックをまとめてみたいと思います。

## アメリカの複雑な医療制度をイメージ

連載の初回に、「アメリカは、日本が25個すっぽり入る広大な国であり、途中略・・・各州が主権を持っていることから、州が変われば別の国だ

なあと感じことがあります」と書きました。医療も連邦と各州政府の法律や規則に従い、さらに、医療保険も民間・公的保険にオバマケアも加わると「非常に複雑なアメリカの医療」になります。

その複雑性を例えるなら、図表1のようになります。この図は、邦人向けアメリカ健康保険セミナーで分かりやすいと好評をいただいているので使用いたしました。日本の医療制度は、図のように一貫した皆保険を基本に理路整然としているのに対して、アメリカの医療制度は、連邦法、州法、民間保険、公的保険、公的民間保険、オバマケアなどが絡み合っています。

そこで、アメリカの複雑な医療がイメージができる、読者の皆さんに参考にしていただけるように、各トピックの歴史的背景、社会的要因、基本

# アフォーダブルとサステナブルの 視点から見たアメリカの医療

ノースカロライナ州 RTP チャペル・ヒルより

河野圭子

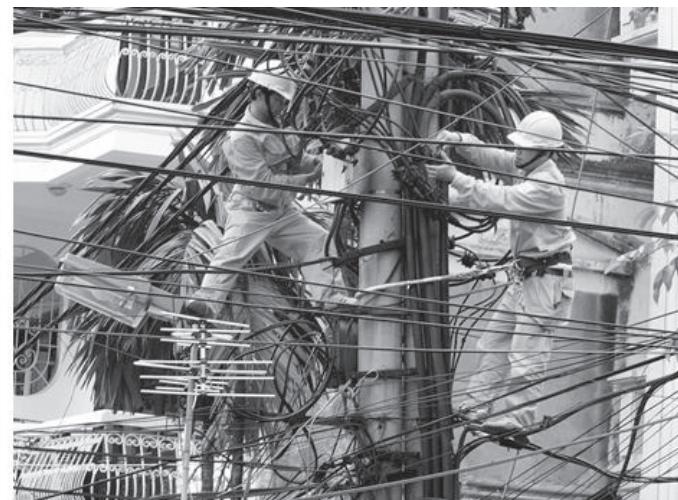
ノースカロライナ州保険部認定 SHIP カウンセラー  
アメリカ病院経営士会認定病院経営士  
薬剤師（日本）

図表1：電柱に例えた日本とアメリカの医療制度

## 日本の医療制度 理路整然



## アメリカの医療制度 複雑に絡み合っている



になる法律も入れながら、コース・イフェクト（因果関係）を明確にして執筆してきました。

### これまでの連載を振り返る ①コロナパンデミックまで

連載がスタートした2019年は、アメリカ全体の入院日数短縮が限界に達していたことから、医療機関は入院治療から外来治療に移せるように包括的外来施設の建設を進めてきました。そこで、その実例をアトランタの市場をもとに執筆しました。

このように外来診療が進む中、薬局チェーンは薬局店舗内に気軽にかかる簡易診療所を設置するようになりました。実は、この原稿を書くにあたり、筆者が患者になって簡易診療所のセルフ受診受付機を操作して、受診した体験記も入れました。

簡易診療所は、ナースプラクティショナー

(NP) やフィジシャン・アシスタント (PA) が診療に従事しています。アメリカは医師不足も相まって NP と PA がプライマリーケア・プロバイダーとして期待されるようになってきたので、後に NP と PA の教育制度、診療報酬、各州の診療範囲について連載しました。

さて、コロナパンデミックまでアメリカの大手病院は、患者収益の高い外国人患者さんを対象にした国際医療部設立に力を入れていました。そこで、代表的な病院国際医療部を選んで、実際に電話インタビューをして現状調査をしました。印象的だったのは、診療費回収をクレジットカード決済で徹底していることでした。

しかし、まさかのコロナパンデミックでアメリカの入国制限が課され、国際医療部の需要が停止していましたが、2023年に入り、本格的に再開しました。

その他、アメリカの自由診療に関連して1診療コードに複数の診療価格ができる仕組み、アメリカの大手健康保険会社であるカイザーパーマネンテ社の多様性に対応できる医師養成を目指した医科大学を設立した経緯について執筆しました。

この頃、筆者がメディケア（公的高齢者健康保険）カウンセラーとして州保険部の認定を取得し、現場デビューを果たした奮闘記も書いてみました。それからすぐにコロナ・パンデミック（2020年3月）に突入しました。対面カウンセリングは数ヶ月停止し、復活したときは、お互いマスクをつけて3メートル以上離れて大声で叫び合う対面カウンセリングとズーム・カウンセリングになりました。

## ②コロナパンデミック関連トピック

パンデミックの話題では、発祥地からチャーター便で帰国した患者を受け入れたカリフォルニア州の病院CEOの取り組み、何の前触れもなくやってきた新型コロナウイルスの集団感染に挑むジョージア州の病院CEOの取り組み、ノースカロライナ州の医療機関のコロナ対策について執筆しました。

執筆の中でも特に苦労した話題は、コロナワクチンに関する原稿でした。文献・新聞検索、オンラインセミナーに参加し、プリンターで数百枚印刷し、膨大な情報をどのようにまとめようかと途方に暮れました。最終的には、日本の医療機関に参考になるのは、物流と配布方法ではないかと考えて、官民連携のプロジェクト「オペレーション・ワープ・スピード」をもとにして、コロナワクチンの開発経緯、ワクチンの物流、医療機関までの配布、薬剤師によるワクチン接種についてまとめました。大手医療系代理店のマッケンソングのノウハウ、広大なアメリカ全土を網羅するフェデックスやUPS社の卓越した国内外物流制度に驚きました。

余談ですが、ちょうどこの原稿を執筆後、テネシー州メンフィスにあるフェデックスのワール

ド・ハブ空港を通り過ぎ、世界中からやってくる同社の航空機の数に圧倒させられたことを覚えています。

パンデミックを機に、大手臨床検査センターが医療機関を介さないコンスマーカー主導型臨床検査ビジネスを開始した背景などを紹介しました。検査料金の提示により高額な請求書がないことがポイントとなり、コンスマーカーから支持を得ています。後に、高額な請求額に関連して、救急車の請求に関する話題も書きました。

## ③対面再開から現在まで

編集部からのリクエストに応えて健診事情からボピュレーションヘルスの現状について執筆しました。アメリカでは、各種健診が、健康保険適応になりましたが、保険料値上げの原因にもなりました。医療機関は、健診による増収に対するバリューベースの支払方式による診療報酬の引き締め、医療機関の収入源としての基金財団の存在について執筆しました。

アメリカの深刻な看護師やコメディカル不足解消に、高校時代から医療の人材を養成する公立高校・州立短大・州立大学の一貫教育制度があります。ノースカロライナ州は、この取り組みが盛んで多くの高校生がこの制度を利用しています。そして、若年層に注目して、アメリカの若年者技能五輪大会の医療競技の実態も書いてみました。

ほかには、オンライン診療や医療へのAIの導入が急速に進んでいることから、オンライン診療、AIの現状、医療機関へのランサムウェア攻撃の実例も紹介しました。

アメリカの健康保険制度の理解を深めるためにオバマケア、メディケア・メディケイド、介護保険の実態や、邦人に対するアメリカ健康保険のアンケート調査結果を執筆しました。

## 最後に

「アトランタから医療360度便り」と「メディケア相談員が語るアメリカの医療」の連載は、日

本語の原稿を仕上げてから、英文に翻訳していました。日本語と英語訳の原稿の執筆は初めてでしたので、度重なる校正や訂正のやり取りをしてくださった編集部や印刷担当者の方々に深く御礼申し上げます。そして、原稿のトピックの相談に応じてくださった編集部の皆さんにも重ねて御礼申

し上げます。

今回で、このシリーズの連載は最終回となります。次回からはコラムで皆さんにお役に立てる情報を発信していきたいと思いますので、引き続き宜しくお願ひいたします。M

## That's so American!

### 自己負担増によるクオリティーとアメニティーのバランス

メディケアのカウンセリングでは、アメリカの高齢者たちは、「いざという時に、自分の健康保険の契約医療機関を探してかかるのではなく、即座に最寄りの医療機関に適正価格でかかりたい」と言われます。その中には、医療機関から高い請求書を受け取った後で、患者満足度の調査が届き、憤りを感じる人も少なくありません。高齢者は、医療機関への受診頻度がほかの年齢層より高いので、これらのコメントは参考になります。

若年層は、受診頻度は減りますが、オバマケア施行後、自己負担の高い高免責タイプ保険を持つ人が増えてきたので、自己負担が増えないようにアメニティー<sup>\*</sup>を減らしてほしいと考える人もいます。入院中、銀のトレイで食事が配膳された人もいましたが、自己負担が高くなるのなら、不要だと言っていました。

今後、アメリカの健康保険は民間、公的保険にかかわらず自己負担増加傾向であるため、アメニティーの充実により自己負担が高くなるのは、マイナス効果にもなり得ます。これからは、クオリティーとアメニティーのバランスを考えた経営が要求されるのではないでしょうか。

\*アメリカの医療機関は、アメニティー費用や投資額を、診療報酬価格に上乗せしたり、管理費として徴収することがあります。



※本稿の内容は情報提供を目的とするものであり、アドバイスやコンサルテーションを目的としていることを了承ください。

●ホームページ: <https://e-kono.com> →

今回の内容に関する情報やアメリカの医療について紹介しています。



**プロフィール■河野圭子** 米国病院経営士会認定病院経営士。薬剤師（日本）。ワシントン大学医療経営学部修士課程修了。フロリダ州サラソタ記念病院にて病院経営フェローシップ終了。アメリカの病院でビジネス開発アナリストや医療機関でボランティアを続けながら全米を縦横断し、現在は8州目のノースカロライナ州で認定メディケアカウンセラーとして活躍中。

本連載は今回で最終回となります。長い間ご愛読いただきありがとうございました。